

氏名	須井 健太
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6799 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Prognostic Utility of the Glasgow Prognostic Score for the Long-Term Outcomes After Liver Resection for Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Multi-institutional Study (肝内胆管癌の長期予後に対する Glassgow Prognostic Score の有用性についての多施設共同研究)
論文審査委員	教授 光延文裕 教授 川口綾乃 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

肝内胆管癌は原発性肝癌の 5~30%と比較的稀であり、現在でも手術が唯一の根治の得られる治療である。GPS はアルブミンと CRP より計算される免疫栄養学的な指標であり、さまざまな癌種での有用性が報告されている。

本研究では我々は、多施設共同で研究を行う事により十分な症例の蓄積を行い、肝内胆管癌の切除後の予後因子としての GPS の有用性の検討を行った。主要評価項目は肝内胆管癌患者における GPS と患者背景、病理学的所見、手術関連因子、術後の予後の関連に関して評価を行った。また、Propensity score matching を用いての GPS と予後との相関の評価を単変量、多変量解析を用いて行った。また、今回の結果を用いて肝切除を行う肝内胆管癌患者での Predictive nomograms の作成を行った。

17 施設から 273 症例で検討を行い、GPS は Hazard ratio=1.62%、P=0.03 であり、CEA、CA19-9 の上昇、未分化癌、リンパ節転移ありなどと並んで有用な予後因子であった。腫瘍因子などの影響を Propensity score matching で除去した後も、GPS は有意な予後因子であった。

これらの結果をふまえて、GPS は肝内胆管癌患者において有用な予後因子であると考えられた。

論文審査結果の要旨

肝内胆管癌は原発性肝癌の 5~30%と比較的稀であり、現在でも手術が根治の得られる唯一の治療法である。一方、Glasgow prognostic score (GPS) はアルブミンと CRP より計算される免疫栄養学的な指標であり、さまざまな癌種の予後評価における有用性が報告されている。

本研究では、肝内胆管癌切除後の予後因子としての GPS の有用性を検討することを目的に、多施設共同研究において、17 施設からの 273 症例で検討を行った。GPS は、CEA および CA19-9 の上昇、未分化癌、リンパ節転移ありなどと並んで有用な予後因子であり、腫瘍因子などの影響を Propensity score matching で除去した後も、有意な予後因子であった。

委員からは、GPS が他の免疫栄養学的な指標に比して有用であった理由、GPS 活用の具体案についての確認があった。本研究者は、研究経緯に基づいて回答するとともに補足説明を行った。

本研究は、肝内胆管癌患者の治療における予後予測等について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。